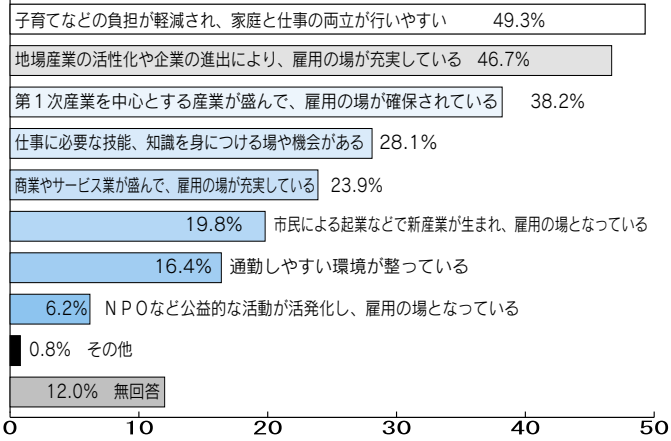


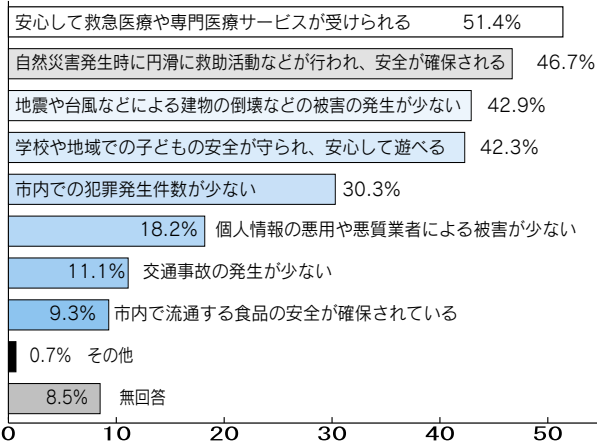
将来はどんなまちに？

産業が盛んな動きやすいまちには？

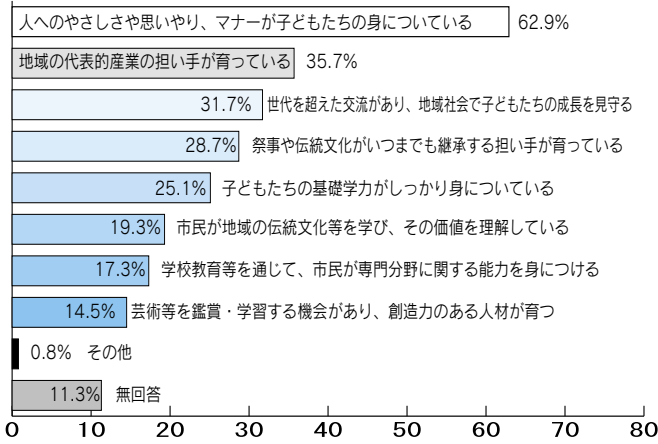


南あわじ市の将来の姿や、まちづくりのあり方については、図の選択式回答に加え、1,114人の方から最も望まれているまちの姿についての意見をいただきました。「雇用対策・産業振興が充実しているまち」に関して235件、「安全・安心なまち」に関して217件、「人が生き生き暮らすまち、思いやり・支えあい・心豊かなまち」に関して203件でした。

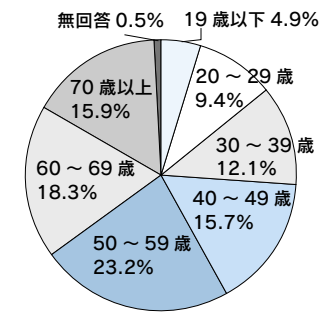
安心安全のまちには？



郷土に誇りを持った人が育つまちには？

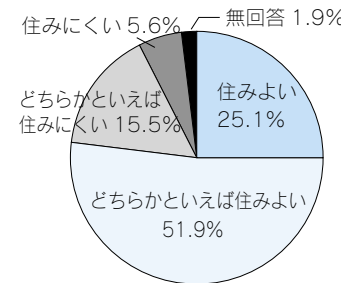


アンケート調査について

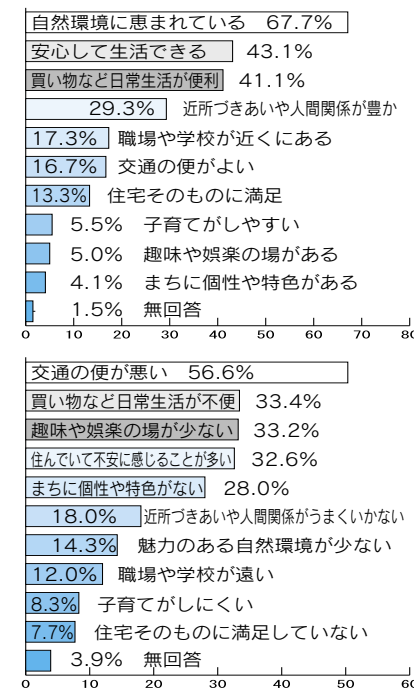


市内在住の16歳以上の4,500人（無作為抽出）に郵送により調査を依頼し、2,284人（回収率50.8%）から回答をいただきました。性別では、男性が42.8%、女性が56.3%、家族人数では、5人以上が37.0%と最も多く、年齢構成では、65歳以上の方が2人以上いる世帯が31.3%、また18歳未満の人がいない世帯が32.9%となっており、少子高齢の様相がみられます。

住みよいまちですか？



「どちらかといえば住みよい」と「住みよい」を合わせると77.0%の方が住みよいとの感想をもっています。年齢別では、10歳代および60歳代以上で「住みよい」と回答された方が相対的に多くなっています。また、「どちらかといえば住みにくい」と回答された方は、市外での居住経験がある方が多い傾向にあります。



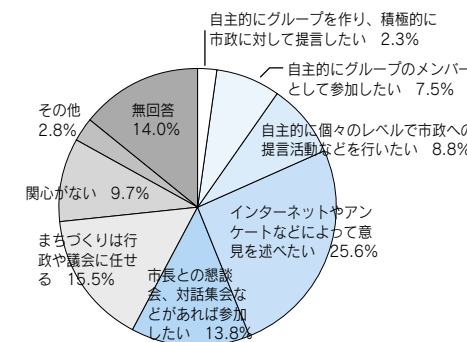
住みよい魅力

「自然環境に恵まれている」が67.7%と最も多く、海や山、農地を含めた豊かな自然資源が魅力になっていることがわかります。

住みにくい理由

「交通の便が悪い」が56.6%と最も多くなっています。都市部より豊かであるといわれる「近所づきあいや人間関係」が、住みよい魅力として約3割を占める一方、住みにくい理由としても約2割の方で「うまくいかない」としています。

まちづくりへの参画について

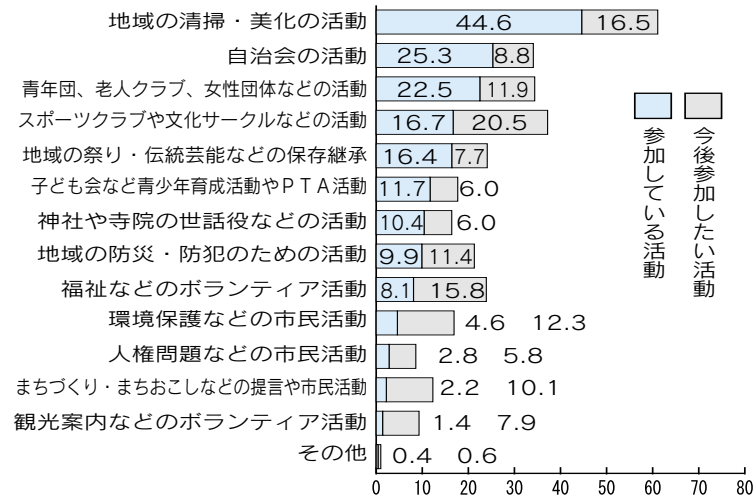


市民のまちづくりへの参加意向としては、「インターネットやアンケートで意見を述べたい」が最も多く、自主的に活動し主体的に行政に提言したり、市民活動のグループに参加したりといった意向は低い状況にあります。特に、若い年齢層において、その傾向が強くなり、関心がないという割合も多くなっています。

自由意見

- ・市の借金返済と、サービスの充実、無駄な公共事業の削減を。
- ・子どもを生み育てていける環境づくりを。市の人口を増やすこと、若い人が住みやすい環境を作ること。
- ・まちづくりは、市民が参加できるように、工夫を市がするべき。市民のアイデアを聞き、取り入れる工夫がほしい。
- ・住んで良かったと思うことを実感できる、福祉の充実をして弱者を助ける行政を。
- ・市の動きなどの情報が各家庭に届くように、ケーブルテレビとか回覧板で実施してほしい。
- ・地震に対して、各地区での避難訓練や近所で助け合う訓練などを行政が実施し、指導してほしい。

参加している・参加したいまちづくり活動



現在、参加している活動では「地域の清掃・美化」が最も多く、次いで「自治会」「青年団・老人クラブ・女性団体」となっています。今後の参加意向としては、「スポーツクラブや文化サークル」のほか、「福祉などのボランティア活動」についても高くなっています。また、市民参画を図るうえで重点的に取り組むべきことについて、「活動時間など、参加しやすい工夫」が57.5%と最も多く、次いで、「託児などの外出環境を整える」50.5%、「活動内容の情報提供やPRの充実」41.4%と続いています。市民と市民、市民と行政のパートナーシップによる新しいまちづくりの担い手をはぐくむ、参画と協働の取り組みを一層推進することが必要とされています。